

日本を美しくする会・鍵山教師塾主催

第 32 回「鍵山教師塾」in 東京

テーマ「不問収穫 只問耕耘」



令和 7 年 7 月 2 7 日(日) 靖國神社

■ 日程

清掃奉仕(参集殿付近)
7:30 受付(参集殿前)
8:00 挨拶(富田浩志会長・鍵山幸一郎様)
8:10 清掃奉仕(外苑参道)
9:00 記念撮影・後片付け・着替え
9:30 昇殿参拝
移動(みらいスペース市ヶ谷)
10:30 講話(富田会長)・質疑応答
11:45 意見交換
12:45 閉会・解散

※13:00 懇親会(アジアンダイニング カーン)

■ 参加者 31名





開会前の自主清掃(2)



開会前の自主清掃(1)



Before



After



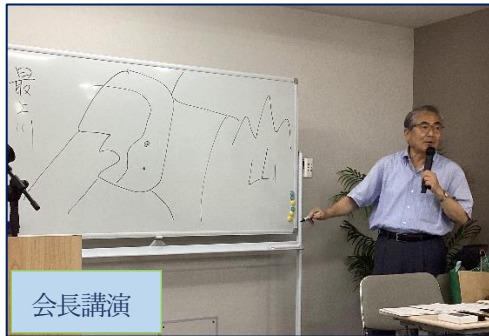
会長挨拶



幸一郎さん挨拶



班別 MTG



会長講演

「清書」

★★ 埼玉県・教員・村田陽 ★★

第32回鍵山教師塾から一夜明けた七月二十八日の出勤前。朝のルーティンの一つで『東井義雄一日一言』を読む。

「清書（運動会）」

六年生のみんなたちが軸になって
ゴミのない体育会を築いたことを
どうか 一生涯 忘れてくれるな
だが みんなたちよ

きょうの体育会は立派であつたが
きょうは 清書ではないんだ

清書は

あすからのみんなのくらしだ

あすからの学校での 勉強

家でのくらしの がんばり

学校の行き帰りの在り方

それが清書になるんだということを

どうか 忘れてくれるな

世話人としては、正直なところ、炎天下の参道清掃奉仕を事故なく終えることができ、また、皆様のお力添えで一連のプログラムも滞りなく納まったことでホッとした朝を迎えたところでした。そんな最中に会った東井先生の言葉

に、今日一日を丁寧生き生きと描いていこう。これからが本番、これからが清書だと改めて引き締まりました。

鍵山教師塾の冒頭、鍵山幸一郎様は「学んで終わりにしないで実践してほしい」と力説されました。具体的にどんな実践ができるかと考えていると、先週出会った相談役のことばが浮かんできました。相談役も阿部さんも既に鬼籍に入られています。実はそうなる前からの方が、お二人にはより近しくお会いできているような気がしています。何度も目にした相談役のことばが、心の奥深くに浸透してくるよう感じられるのです。高田好胤老師も「人は亡くなつてから真の出会いが始まる」といった趣旨のことばを残しています。相談役が届けてくださったそのことば。

日々の生活の中で善の循環をつくり出す

「善の循環」とは何か？ まずは相手様に不快な思いを抱かせないように和顔温言を心掛けて、相手様に温かく在ることだと思いました。私の脳裡には、いつでもそんな和顔を湛えた靖國の御英霊の姿があります。そんな御英霊を鑑にして、御英霊の皆様は愧じぬよう自らを肅み、「国安かれ」という明治帝（靖國神社）の願いを実現できるような自分を日々の生活でつくり上げていきたいです。

東京掃除に学ぶ会の大本さんが、講演後の質疑応答の折、富田会長に関して、「以前、清掃後に拭かれたバケツを一人で磨き上げている姿を見た。こんなお方に会長になってもらって嬉しい」と絶賛されました。私も会長のお話以上に、この日の会長の姿勢に感銘を受けました。というのも、会長には、十時三〇分から講演を依頼していたのですが、実際には八時からの清掃奉仕どころ

か、六時三〇分には誰よりも早く神社内苑にお見えになり、すぐに竹箒を手にして掃き掃除を始められました。しかも相談役を見るような「さりげなさ」と神々しさ」とが相俟った嫌味のない後ろ姿で単身サラリと掃き清めておられました。実に美しい後ろ姿でした。

もう一点、この場には是非とも記して、多くの皆さまと共有したい情報があります。それはすべてのプログラムが終わって、九段下の駅に向かう途中で、東京の山崎敏哉先生に教えていただいたニュースです。去る七月六日から十三日の日程で、天皇后両陛下は、国賓としてモンゴルを親善訪問されました。その主たる目的は何かというと、大東亜戦争後に当時のソ連によってなされた日本人抑留に伴う犠牲者への慰霊なのです。ご訪問前の会見では「日本人死亡者慰霊碑に供花をし、心ならずも故郷から遠く離れた地で亡くなられた方々を慰霊し、そのご苦勞に思いを致したい」と述べられておられます。そして山崎先生によると、陛下はフレルスフ大統領夫妻が主催する晩餐会に出席された際、自身のピアノを手に舞台上上がり、モンゴル国立馬頭琴交響楽団と共演され、モンゴルの曲に加えて、童謡「浜辺の歌」を奏でたそうです。「浜辺の歌」の歌詞に込められた思いとは、AIによる概要では、「失われた愛しい人への追憶と、自然の風景を通して感じる人生の寂寥感」とあります。これはモンゴルでの抑留犠牲者に対する陛下の鎮魂慰霊の願に他ならないと確信します。訪問を終えた両陛下は、文書で感想をお寄せになり「先の大戦で亡くなられた方々のことを忘れず、過去の歴史に対する理解を深め、平和を愛する心を育んでいくことが大切ではないかと改めて思います」と述べられました。正に「やすくにのころ」そのものです。両陛下は、戦後八十年となる今年、四月の硫黄島に始まり、六月は沖縄、広島を慰霊訪問され、九月には長崎も訪問される予定だそうです。ただ、かくも御英霊に対する尊崇の念深厚たる陛下であらせ

られますが、靖國神社御親拝は昭和五十年に昭和天皇がされて以来途絶えています。今年は昭和で言えば百年ですから、五十年間も御親拝遊ばされずにいる環境だということです。まずは、私たち日本国民こそが、靖國神社参拝を当然のこととする気風を再興して、御親拝の地均しをしないといけないと痛切に思っています。陛下は、戦死者のみならず、私たち国民のことも大御宝として祈って下さっておりますのですから。

最後に、表玄関たる大鳥居から続く参道を清掃させて下さり、すべての清掃道具等をご用意くださった靖國神社管理課の皆様と、道具の後片付けを進んで引き受けて下さった方々、そして、事故なく有意義な一日の学びの会を見守って下さった靖國神社に鎮まる二百四十六万六千余柱のご祭神、並びに鍵山先生、阿部さんに心より深くお礼申し上げます。

